

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
笑顔いっぱい 元気な子	やってみよう 考えよう	子ども達が様々な素材や教材に触れて自分から遊ぶ姿がある	・身近にある物や素材、教材を使って自分から工夫したり考えたりして遊ぶ姿が多く見られるようになっている ・保育者を頼らず自分の力でやってみようとする姿が増えてきている ・興味のある環境に自ら関わり遊び始める姿がある	A	A	・小学校でも、子ども達が「なぜ？」という疑問はもてるけれど、その先を学びにつなげにくい姿がある。今は一人一台Chromebookを持っていて、何でも検索する時代。教師もわからなければすぐにスマホで調べている。わからないことがあったら、立ち止まって考えたり誰かと相談したりすることが大事だと感じる。	・子ども自身が「〇〇したい」という思いをもって遊び出す姿が増えたが、もっと考えることを楽しんでもらう為に、五感を使った様々な遊び、経験ができるようにしていきたい。その為に、自分達が好きな物を選んで取り出せる環境をもっと整えていく ・一人一人が安心して自分の思いを出せるために、一人一人とより丁寧にしかかわっていくことを大事にしてい
		子ども達が身近な環境に自分から関わり、考えたり試したり調べたりする姿がある	・失敗してももう一度やってみようとしたり、次の日に別の方法を試す姿が見られたりする ・考えようとする姿はあるが、試したり調べたりすることは難しい・虫のことは図鑑で調べ興味をもっている。試して上手くいかず失敗で終わることもあり「調べる」までには至らない ・興味のあることにに関してやってみようと調べたりする子もいる。受け身な子が多いと思う。	B	B	・子どもがカブトムシを捕まえた時に、園で図鑑を広げその上にカブトムシを実際に乗せながらどの種類か考えて、これと同じだ、と断定したことがあった。実寸大で載っているのは図鑑だからこそ良かったと感じた。タブレットでは縮尺されているので手元に図鑑があるのは良いと思う	
		子ども達が友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに気づいたり、保育者と一緒に考えたりする姿がある	・ルールのある遊びや友達と複数人での遊びを楽しむようになってきた中で、友達との関わりも増え、相手の気持ちに気づけるようになってきている・年下の友達を思いやったり、思いを尊重してあげようとしたりする姿がある。一方で同年齢の友達に対しては自己主張が強く、自分の思いを強く通そうとする姿がある・一緒に遊ぶ中で相手の思いに気づくことはなかなか難しいものの、友達を意識している子が多く、困った時や泣いている姿に気づき声をかけたり気にかけてたりする姿が見られている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	0歳児から5歳児までの発達や興味・関心に合わせて遊びが用意されている	・年齢、発達に応じて遊び環境が用意されている・月案検討を毎月行うことで、子どもの姿に応じた環境を用意したり、他学年の遊びについて考えたりしている・園庭環境については、ボードを活用するようになったことで、遊びの共有につながった・年齢に合った玩具、環境は用意されているがアイディアを出し合うクラスを見て回る機会があるともっと魅力あるものになると思う	A	A		・クラスや学年間の共有はできていたので、園全体の共有を確実に実施していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムに合わせて安心して園生活が送れるように配慮している	・家庭環境も踏まえて個を大切にしながら保育者一人一人が子どもと関わろうとしている・家庭とのコミュニケーションをとりながら個々に合った保育をしている ・担任間、保護者との連携をとり保育しているが、コドモンでのやりとりでの難しさは感じる	A	A	・コドモンでのやりとりになって、写真等多く載せてくれているのが嬉しい。半面、降園時に対面で担任の先生からの話を聞くことが少なくなった気がしている	・コドモンでのやりとりが増えるが、引き続き、各家庭とのコミュニケーションを丁寧にとっていくようにする。子どもの姿や成長について、直接会話をすることで共有するようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが自分から遊び出したり、考えたりすることができるような素材や教材が用意されている	・廃材コーナーを見直したことで、子どもが自分で選択して製作できるようになってきている・クラス、学年単位では環境作りを行っているが、園全体として環境をどうしていくかという話ができると子どもが自分で遊び出せる環境になっていくと思う・素材、教材がもっと充実できるよう家庭へと発信することも必要だと感じる・朝環境を用意しても他学年が遊び始めたり、スペースの共有が難しかったりして、連携不足と感じる。全体で共有する必要がある・保育者が用意しているが、必要なものを子ども達と家庭を巻き込みながら用意してもよかったと思う。子どもが用意できるような倉庫や教材庫にした	B	B		・乳児の園庭の使い方、共有の仕方の難しさが課題としてあったので、話し合ったこと、園全体で共有したいことを、日々の実践につなげる
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園児が安全に行動できるよう、様々なシチュエーションを想定した訓練が計画的に行われている	・減災教育について研修等で学んだことが全体に周知されクラスでも危険の少ない場所等話し合うことができてい ・いろいろなシチュエーションではあるが、やっていることは毎回同じ様思う。もっとその時に合わせた避難の仕方があるのではないと思う・訓練は常に本当に起こることを想定してオーバーなくらいのアクションで子ども達にも考えるきっかけを作れたと思う・反省を紙ベースだけでなく話し合いの場を設けどのように避難するか職員全体でシミュレーションした方が意見や考え方が出し合えて良いと思う	B	B	・第一避難所、小学校までの避難経路を確認しているのであれば、年長の子も自身が家でも話ができるくらいになると良いと思う。以前、参加会で避難訓練を体験した時に先生がゆっくり「お友達と手をつないで」と話していたが年長児ならどう動くかを考えることもできれば良いと思う	・毎月の訓練内容を検討し、現状に合った訓練を実施していく。また、その都度反省を園全体で共有し次の訓練に活かすようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食への関心を持てるように、保護者や職員間で子どもの姿を共有し、季節の食材に触れられる取り組みを行っている	・栄養士が毎日クラスを回り子どもたちの食べる様子を見たり、食育の会も工夫して見たり触れたりする機会をもつようにしている ・食育の会の様子をボードでお知らせして保護者の方との共有にもつながっている	A	A		・食育の日だけでなく、日々の食事の時にも担任が意識して声をかけることを続けていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもの特性を理解した支援方法を職員間で共有し、保育を実践している	・支援児の会中心に支援体制が整っている。職員会議等で共有されているが全体に参加しないとわからないことが多い・クラス間で子どもの表れについて共有している。早速番や、土曜保育の利用もあるので、他学年や他クラスのサポートプランも共有できると良いと思う・ケース協議は会議としてではなく、園内研修としてやっていくと色々な職員から意見がもらえと思う・支援児の成長している姿や、支援方法について、担任以外の職員やパート職員にも伝える機会がもっとあると良い・支援児担当以外の職員にも、支援児の会についてや一人一人の様子を事例や具体で共有を図れると良い	B	B	・特別支援コーディネーターと養護教諭、担任が集まって、支援が必要なお子さんに学校としてどのように連携していくか、週に一回集まって共有している。外部のコネクトが必要なら外部にコンタクトをとり、繋げている。小さい集まりというのが良いと思う	・支援児の会を担当している職員だけでなく、園内で支援児の会を見合う機会をもつなど、園全体で意義や内容についての共有をはかる
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌のリーダーを中心に役割り分担がされ、計画的に実行し振り返りが行われている	・分掌のリーダーを中心に計画的に実施している・分掌の中では協力して取り組めていると思うが経験年数の少ない職員は何をしたらいかわからないということもあると思う。周りに意見をもらうことも必要・分掌のリーダーがもっと職員全体に役割をふるような意識で進めていけると園全体が活性化していくと思う	A	A		・分掌担当だけの負担にならないように、進捗状況について毎月、会議での報告を行い、「知らない」という状況が生まれないようにしていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修部を中心に、計画的に研修を進め、子どもが考える姿を支える関わりについて職員間で共有している	・事前研、事後研それぞれ、意見を出し合いとても学びがあった。・全クラス公開保育があることであまり接点がない子どもにも触れることができた・公開保育を経てどんなところを改善したかということまで共有も行っている・パート職員にも研修に参加してもらい視野が広がりが様々な意見交換ができている・研修を重ねるごとに見えた課題や”もっと～してみよう”という職員の思いを反映して実行に移せているところが良い・研修日より配付するだけだと、参加できない職員にどこまで伝わるのか不安がある	A	A		・園内研修への参加者を今年度パート職員も増やしたことで、少し子ども理解、園内研修の理解に繋がったと思う。次年度もやり方を考慮し、様々な職種職員の職員が実際に参加できる機会をもてるようにし、子ども理解を深めていきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自ら物を取り出したり片づけたりしやすい環境づくりを行い、定期的に見直しを行っている	・写真をラミネートして貼り、片づけしやすい工夫をしている ・倉庫や廃材置き場の見直しを話し合いながら、何回か行っていることで、子どもが自分で取り出したり、選んだりできる環境につながっている ・もっと工夫して環境を見直していきたい ・片付けをする以前に、片づける場所をまず保育者が作る必要がある。もっと片付いた園になると良い	B	B	・小学校でも片付けは課題。大人と子どもと片付けのイメージが違うので、片づけの場を設けるだけではなく、写真等でロッカーの片付いた状態を知らせ視覚で伝えることを支援級でやっているのも、必要かもしれない	・反省した後実践に結びつかないため、いつまでにどのように実施する、という見通しをもった改善策を各自が具体的に提示していくようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ドキュメンテーションだけでなく、参加会や懇談会等で園や家庭での子どもの様子を伝え合う機会をもち連携をはかっている	・送迎時やおたより、ボード等で園での様子を伝えることができてい ・保護者と直接コミュニケーションをとれるよう常に意識している。必要に応じて面談を実施し、保護者の悩みに応えていくようにしている・参加会の際、日中の様子、食事の様子、午後の活動の様子など場面を変え、子どもの様子を見てもらえるようにしている ・参加会では子どもの様子をこっそりみたいという保護者の要望を踏まえ工夫して実施した	A	A	・保護者として、早い迎えの時もあるので、ボードがいつでも見られるようになったことは有難い。遠方の祖父母にもコドモンを共有できるので見てもらえるのもとても良い	・参加会や懇談会などの実施方法の工夫を行い、保護者と直接話ができる場を大切にしてい ・ICTも活用しつつ参加会等、取り組んでいく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園と交流しながら学校訪問をしたり、公開保育、公開授業を通し、情報共有が行われている	・公開保育や参観に行くことで勉強になった。・研修拠点園に、多くの職員が参観させてもらい、それをもとに職員間での話し合いをもつことで、職員の学びにつながった。・他園の環境構成等、参観して学んだこと、話しあったことを自園でも活かしていきたい・紙面での研修報告はあるが、直接話を聞くことでより深い学びにつながると思うので、全体に共有できると良い・近隣園や小学校との子ども同士の交流がもっとできると良いと思う	A	A	・小学校の隣の幼稚園とは、昔からプールや校庭を利用したり、交流がある。1年生の生活科で来年度も交流を考えているので、是非参加してもらえればと思う	・小学校へのアプローチを早い段階で行い、計画だけで終わらず、実践できる形にする ・公開保育、公開授業へ積極的に参加し、得た学びを職員全体にも報告して返すことを行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	野菜作りや囲碁教室、デイサービス交流などを通して地域の人と関わる場が継続してある	・デイサービス施設とは、各学年が交流の機会をもち地域の方と触れ合えて良かった。勤労感謝の日の交流でいつもと違う地域の方ともつながれたことが良かった。もっと交流を広げたい・地域の方に園にきていただき、伝統的な遊びを教えてもらうなどの機会をもっと良いのではないかと・散歩の際、地域の方に子どもたちと一緒に挨拶するなど交流ももっている・デイサービスの交流をもっと早い時期からやれば良かった。・手遊びや歌をうたうなど気軽に交流できるともっと良い・デイサービス交流の報告もあると行っていないクラスにもより伝わり共有できると思う・野菜作りは年長以外もできるかなと思う	B	B		・デイサービス施設との交流を、計画的に実施し、気楽に参加できるようにする ・散歩等を通じて、地域とのつながりを深められるようにしてい